

# 松江 市立病院 だより

## Vol.78

2017年  
冬号

### CONTENTS

新年を迎えて	1
「がんセンター」のご紹介⑤	2
〈最近の医療から〉	
乾癬の新しい治療法	4
〈薬剤部より〉	
ポリファーマシーを改善するために ～お薬手帳を活用しましょう～	5
〈感染対策室より〉	
病院へ行くということ	6
〈看護局より〉	
乳がん看護認定看護師の役割 市民とのふれあいで広げる“乳がん自己検診”の重要性	7
〈栄養のお話〉	
嚥下調整食を知っていますか？	8
地域連携だより	9
がん市民公開講座 がん相談支援センター	
〈トピックス〉	10
医療安全推進週間 立体駐車場エレベータ設置 口腔がん集団検診 いやしの森コンサート	
松江市立病院の理念・基本方針	11
診療日程表	12



## 新年を迎えて

松江市立病院長 紀川 純三

明けましておめでとうございます。皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は本院にとって大きな改革の年でした。医療技術局を廃止し、中央診療部として薬剤部、検査部などの各部門に責任者を配置することにより、効率的な病院運営ができるようになりました。また、平成27年度は2年連続で黒字決算となり、帳簿上の資産と累積欠損金との相殺により100億円余りの累積赤字をなくすることができました。勿論、経営だけではなく、病院の質が重要であることは言うまでもありません。8月には、日本医療機能評価機構による病院機能評価の更新審査を受けました。その結果、診療面だけでなく安全やホスピタリティに関しても高い評価を受けることができました。これも職員一同の努力の結晶です。今後も、病院機能の充実強化、他医療機関との連携を進め、より質の高いサービスを提供できるよう、職員一同一丸となって取り組んでいかなければなりません。

本年3月には愈々、がんセンターが完成します。外科手術に匹敵する確実性を有しつつ臓器機能温存が可能な最新の放射線治療設備を整備します。特に、山陰地方では初となるサイバーナイフの導入はこの地域のがん医療に大きな福音となることが期待されます。緩和ケアセンターでは、在宅療養についての相談にも応じるなど、「在宅ホスピス緩和ケア」を推進するための拠点となります。また、安全かつ快適に治療が受けられる外来化学療法室の新設とともに、治療の副作用や合併症を予防・軽減するために、がん口腔ケアやフィットネスルームを完備します。がんセンター内には“カフェ・ド・クリエ”が山陰で初めて出店します。さらには、食事・栄養に関する相談、精神的サポート、就業や経済的な問題にも対応できるようになります。そして、高齢者にも優しいがん医療を目指したいと思います。

本年も、当院すべての職員が誠実に医療に取り組み、高いレベルの診療を行うことにより、地域医療への貢献を果していきたいと考えております。ご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



病院モットー

愛情 信頼 奉仕

# 「がんセンター」のご紹介⑤

松江市立病院では、平成29年春の開設をめざして、がんセンターの建設を進めています。このがんセンターでは、高齢者も働く世代も、住み慣れた地域で安心・納得できるがん治療が受けられる環境を整備します。

## 緩和ケアセンター

がんセンターに設ける緩和ケアセンターは、緩和ケア外来、緩和ケアチーム、緩和ケア病棟を統括するセンターです。地域との連携も緩和ケアセンターが中心となって行います。がん患者さんは、がん自体の症状のほかに、痛み、倦怠感などのさまざまな身体的な症状や、落ち込み、悲しみなどの精神的な苦痛を経験します。緩和ケアは、がんと診断されたときからおこなう、身体的・精神的な苦痛をやわらげるためのケアです。当院は、島根県で初めて緩和ケア病棟を設置し、山陰地方でも最多の病床数を有しています。緩和ケア外来もおこなっており、様々な職種からなる緩和ケアチームを構成し、より多面的なケアを実践してきました。がんセンターでは、がん診療の機能強化のため、緩和ケア外来の専用室を設置します。また、緩和ケアチームの拠点となることで、院内の各診療科の他、患者さんのかかりつけ医や訪問看護師等の院外からの在宅療養に関する相談にも対応し、地域との連携を強化した在宅ホスピス緩和ケアを推進する拠点としていきます。さらに日常生活動作の訓練用施設として「ADL (activities of daily living: 日常生活動作) ルーム」を整備し、患者さんが安心して在宅で療養生活が過ごせるようにします。またご家族の介護への不安にも対応します。

「がんと診断されたら緩和ケアを受けましょう」をモットーに、院内や地域の中心となって、患者さんやそのご家族が適切ながん医療を受けることができるようお手伝いしていきます。



## ハートフルサロン松江

当院ではがん患者さんやそのご家族が、お互いの悩みや不安を解消するための語らいの場として、がんサロン(ハートフルサロン松江)を設けています。これまでは院内の会議室を使用しており、週1回の活動となっていました。がんセンターでは、いつでも気軽に立ち寄れるよう常設の専用室を整備します。これにより、患者さんやそのご家族が、毎日ハートフルサロンを利用することができます。学習会の開催や、内外のサロンとの交流の場を設けるなど、ハートフルサロンの積極的な活動を支援していきます。

## フィットネスルーム“PRIMO”

がん患者さんが有酸素運動や筋力トレーニング、ストレッチなどを行うことで、身体機能の維持・改善が図れたり、倦怠感や心理面、QOL (quality of life: 生活の質) が改善されたりするという研究結果があります。

がんセンターに新設するフィットネスルーム「PRIMO (プリモ)」では、主に化学療法や放射線治療中の外来患者さんを対象として、専門のスタッフがそれぞれの患者さんの状態に応じたプログラムを組み、最新鋭のマシンによりフィットネスを行うことができます。



これらのトレーニング機器を設置します。

## カフェ

がんセンターの1階入口に、憩いと癒しの空間として、新たにカフェを設けます。

テナントとして出店されるカフェは「CAFÉ de CRIÉ (カフェ・ド・クリエ)」です。関東や関西方面では、街中でよく見かけるお店です。がんセンターへの出店が、山陰地方での第1号店となります。ドリンク類だけでなく、パスタやサンドイッチ、ケーキなどのフードメニューも豊富に扱っています。

どなたでもご利用できます。待合も兼ねた客席となっておりますので、皆さんお気軽にお立ち寄りください。



## がんセンター いよいよ稼働します

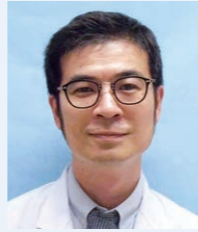
平成29年3月12日 (日) 午前 竣工式  
午後 記念講演会 (がん市民公開講座)  
市民見学会  
(申し込み方法等は、追ってホームページでご案内します。)

平成29年3月21日 (火) 診療開始

(日時は予定です。)

## かんせん 乾癬の新しい治療法

皮膚科科長  
(日本皮膚科学会皮膚科専門医)  
松木 真吾



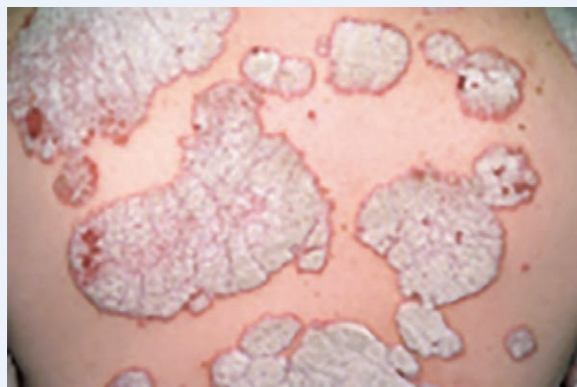
乾癬という慢性の皮膚病をご存知でしょうか。全身のいろいろな場所で、皮膚が赤くなって盛り上がり、表面に厚い銀白色の「かさぶた」のようなものができて、これがポロポロはがれ落ちます。このような皮膚症状のほかに、関節の痛みや変形、発熱や倦怠感などの全身症状が起きることもあります。乾癬の原因ははっきりとはわかっていませんが、日本乾癬学会の調査によると、およそ1,000人に1人の割合で発症し、患者さんは全国に約10万人いると推定されています。

乾癬では皮膚症状や関節炎などの身体的な症状がづらいばかりでなく、肌を見られることにストレスを感じたり、そのために行動が消極的になってしまったり、学校や職場での人間関係や異性との付き合いに悩まされたりなど、精神的な苦痛を感じている方も少なくありません。乾癬治療の目標は、症状やライフスタイルにあった治療法を見つけて、症状の改善と生活の質の向上をはかることです。

これまでの基本的な治療としては、皮疹の範囲が狭い場合はビタミンD軟膏やステロイド軟膏を外用する方法があります。しかし症状が全身に広がる場合は全身治療が必要になり、お薬を内服していただいたり紫外線を全身に照射する治療を定期的を受けていただいたりしておりました。しかしそれでも症状を完全に抑制できることは少なく、患者さんの生活の質の向上という面ではまだまだ不十分だったと思います。

乾癬の新しい治療法がこの数年で次々開発されており、その有効性は非常に高いです。これはヒトが体内で作れ出す「抗体」と呼ばれるものを化学的に作り出し、体の中で症状を引き起こす物質を直接抑制するもので、「分子標的薬」と呼ばれる注射薬になります。残念ながら病気の根治療法ではなく症状を抑える治療ですので、病気がなくなるわけではありませんが、長年皮膚症状で悩んでこられた患者さんにとっては画期的なお薬です。ただし、薬剤使用の適応要件が厳しいこと、高価な薬剤ですので健康保険適用でも一部負担金が高額になることなどから、その他の治療方法とあわせて相談した上で治療方法を決定したいと考えております。

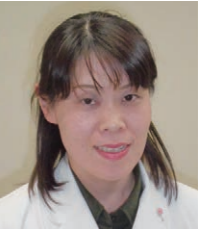
当院は、この薬剤使用に関して日本皮膚科学会の承認施設となっております。かかりつけの先生にご相談の上、当院皮膚科にご紹介いただくようお願いいたします。



## 薬剤部より

## ポリファーマシーを改善するために ～お薬手帳を活用しましょう～

薬剤部副技師長  
酒井 牧子



### ●ポリファーマシーとは？

みなさんは「ポリファーマシー」という言葉を耳にされたことがありますか？

一般的に「ポリ」は「多くの」、「ファーマシー」は「調剤や薬剤」の意味なので、直訳すれば「たくさんの調剤した薬剤」となります。そのため、日本語では「多剤併用」と訳されることが多いです。ポリファーマシーには様々な考え方がありますが、複数の薬剤が併用されており必要以上の薬剤が処方されている状態をいいます。

特に高齢者では同時に複数の疾患を治療していることが多く、多剤併用が増える傾向にあります。また薬剤を分解する能力が低下し、薬剤の血中濃度が上がりすぎたり、薬剤の排泄能力が低下したりして副作用が起こりやすい状態にあります。年齢を問わず、多剤を併用することで副作用が起こる危険が増加するとの研究結果も出ています。薬剤の数が多すぎることや飲み方が複雑で、きちんと指示された通り服用できない状態になることも問題となります。

またある薬剤の副作用に対してさらに薬剤が追加処方されて、薬剤の数がだんだん増えてしまう「処方カスケード」と呼ばれる事象も起こっています。つまりポリファーマシーは患者さんにとって不利益を受ける状態といえます。

しかし、ただ薬剤を減らせばいいというわけではありません。必要な薬剤は服用しなければなりませんし、薬剤によっては急にやめるとかえって症状が悪くなることもあります。

医療者側としても、患者さんの健康のために体の状態に応じて薬剤の種類や量を見直す必要があります。

### ●お薬手帳を「ポリファーマシー防止」に活用しましょう

#### 【使い方】

- ・医療機関や薬局ごとにわけるとはならず、ご自分の分は一冊にまとめましょう。
- ・病院や薬局に行くときは必ず持参し、そのほかの外出時や旅行などでも常に携帯しましょう。
- ・アレルギーや副作用が起こったときは記録しましょう。
- ・市販のお薬やサプリメントを飲んだときも記録をしましょう。

#### 【メリット】

- ・薬剤の飲み合わせや重複をチェックすることができる。
- ・副作用歴、アレルギー歴、過去にかかった病気などの情報を伝えることができる。
- ・旅行や災害、急な病気の時に自分の薬剤の情報を正確に伝えることができる。

当院では入院時、持参されたお薬とお薬手帳をお預かりし、薬剤師が薬剤の内容を確認してカルテに記入します。薬剤の重複投与や相互作用などがないかどうか確認をしています。この時お薬手帳が大変役立ちます。もし、今は症状がないのにずっと飲み続けているお薬があるとか、一つでも薬剤を減らせないかなどのご相談があればぜひ担当薬剤師に相談してください。



## 感染対策室 より



# 病院へ行くということ

感染対策室感染対策専門幹  
(感染管理認定看護師)  
米田 桂子



近年の病院は昔のような病院特有の匂い、いわゆるくすり臭いということがありません。消毒薬による毒性が問題となり、病室をはじめとする療養環境だけでなく、病院内全ての環境に関して、消毒することは推奨されていません。その代わりに、汚れを取り、見た目にきれいにすることを重視しています。また、定期的な清掃だけでなく、汚れがある場合には臨機応変に清掃を行っています。もし、行き届いていない場所などがありましたら、遠慮なくお知らせください。

しかし、どんなにきれいに掃除をしても、病院という環境ではいたるところに病原微生物がいます。自分の手が触れる場所は、当然、他の人の手も触れています。不特定多数の人の手が触れる場所には、病原微生物が付着していると考えてください。是非皆さんも、病院での受診時はもちろん、入院患者さんの面会に来られた時も、まず手を消毒してください。そして患者さんの病室へ入られる時にも、手指消毒をするか手を洗ってから入るようにしてください。

現在、皆さんの周りでインフルエンザは流行していますか？ インフルエンザ対策で重要なのが、咳がある人は鼻と口を覆う、自らマスクをする、咳をしている人にはマスクの着用を勧める、痰を採ったり鼻をかんだりした後は手を消毒する、咳をしている人とは1m程度離れて座るなどの「咳エチケット」です。この中でも「マスクの着用」には注意が必要です。顎が見えたり、鼻の孔が出ていたりしていませんか？ マスクは、しっかりとひだを伸ばし、鼻の上から顎の下まで覆うことが大切です。普段からインフルエンザに罹らない、拡げないように、「咳エチケット」と「手指衛生」に努めましょう。

当院では、原則として面会制限を行っていませんが、咳などのかぜ症状や嘔吐・下痢のある方の面会をご遠慮いただいています。特にインフルエンザや感染性胃腸炎の流行シーズンには、不要不急な面会は控えていただきますようお願いいたします。



## 看護局より

# 乳がん看護認定看護師の役割

4階西病棟副看護師長  
(乳がん看護認定看護師)  
山田 美保子



乳がんは、平成8年から約20年間、女性のがん罹患率1位を占めています。日本人女性ももっとも罹りやすい「がん」が乳がんだということになります。数字でいうと、女性の12人に1人といわれてきたのが、最近は11人に1人が罹るといわれています。また、新たにがんと診断される方は年間9万人にも達する勢いで、40代から50代の方を中心に、今後もさらに増えていくと予想されています。

乳がん看護認定看護師である私には、近年、高度化・多様化している乳がん治療（手術療法、薬物療法、放射線療法）を受けられる患者さんやそのご家族の不安に寄り添い、納得して治療を受けられるようにサポートしていく役割があります。

乳がんの治療は患者さんの状態に合わせた個別化の時代となっており、治療期間も10年以上に渡るなど長期化しています。当院では、乳腺外科の医師、形成外科の医師、薬剤師、がん看護領域の専門・認定看護師、外来や病棟の看護師、理学療法士などの多くの職種がチームとして協働し、患者さんやそのご家族の不安や苦痛が少しでも軽くなり、「その人らしい」生活が過ごせるようにサポートしています。

現在私は、医師から病状や治療方法の説明を受けられたあとの適切な情報提供に努め、患者さんが大切にしたいことを尊重しながら考えられるように支援をしています。手術での入院期間は短いですが、身体的ケアでは手術前後の不安への軽減や身体的苦痛への援助・リハビリテーションへの支援を行っています。また、補整下着の選択、乳房再建への支援、脱毛時のケアなど治療に伴うボディイメージの変容に対する相談や、リンパ浮腫予防のための指導など専門的知識を使って、患者さん自身が安心して日常生活を送ることが出来るように支援しています。精神的ケアでは、日々病棟スタッフと共に患者さんやそのご家族の不安な気持ちに寄り添い、タイムリーなかわりを心がけ、きめ細やかなケア・支援を目指し、乳がんの看護に取り組んでいます。何か気がかりなことやご心配なことがありましたら、いつでもご相談ください。

## 市民とのふれあいで広げる“乳がん自己検診”の重要性

10月30日(日) 松江市総合運動公園で開催された松江市農林水産祭に、ピンクリボンキャンペーンの一環として、ハートフルサロン松江の皆さんと一緒に、当院も参加しました。

当日は天候にも恵まれ、朝早くから大勢の市民で賑わう中、乳がん自己検診の啓発リーフレットを配付しました。また、乳がん触診模型による触診体験や各種がん相談も行いました。約80名の市民の皆さんが立ち寄ってくださり、ご自身の体験や家族のがんについての相談も受けました。がん検診の必要性について啓発する良い機会となりました。

市民の皆さんと話をすることで、乳がんに関心を持っていない方が多いことが分かりました。2人に1人はがんに罹り、女性の11人に1人は乳がんになります。自分の健康を守るひとつの手段として「乳がん自己検診」の重要性をもっと知っていただけるよう、今後も努めていきます。



# えんげ 嚥下調整食を知っていますか？

栄養管理部管理栄養士  
明事 典子



様々な病気などにより、嚥下（食べ物や飲み物を飲み込むこと）が難しくなることがあります。このように嚥下機能が低下すると、十分に食事をとることができなくなり低栄養状態になって、日常生活や健康状態に悪影響が及ぶことがあります。

そのため、嚥下機能を回復させるように嚥下調整食を用いた嚥下訓練を実施します。嚥下訓練では、必要に応じて嚥下造影検査（略称：VF）や嚥下内視鏡検査（略称：VE）などの検査を施行したりして、嚥下機能を評価します。そして、嚥下機能の状態に適したレベルの食事（嚥下調整食）を提供し、嚥下訓練をおこないます。

嚥下調整食のレベルは、0から4へ数字が上がるにしたがい、普通の食事の形態に近づいていきます。

## 嚥下訓練食品 0j

重度の症例に対する評価・訓練用のもの。  
少量をすくってそのまま丸呑み可能で、たんぱく質の含有量が少ない「ゼリー」のようなもの。

## 嚥下訓練食品 0t

重度の症例に対する評価・訓練用のもの。  
少量ずつ飲むことを想定した、たんぱく質の含有量が少ない「とろみのついた水」のようなもの。

## 嚥下調整食 1j

ゼリー・プリン・ムース状のもので、既に食塊状（食べ物を噛み砕いて、飲み込める状態になったもの）となっており、少量をすくってそのまま丸呑み可能なもの。



## 嚥下調整食 2-1

ピューレ・ペースト・ミキサー食など、口に入ると容易に食塊状となる、均質でなめらかでまとまりやすい、ペースト状の重湯や粥などのようなもの。

## 嚥下調整食 2-2

（嚥下調整食2-1と同様であるが）やや不均質（粥の粒等）なものを含むもの。



## 嚥下調整食 3

形はあるが、歯や義歯がなくとも舌で押しつぶしが可能であるもの。



## 嚥下調整食 4

全粥や軟飯など、かたすぎず、ばらけにくく、貼りつきにくいもので、箸やスプーンで切れるやわらかさをもつもの。



# 地域連携 だより

松江市立病院では、周辺医療機関と連携を図りながら、医療の充実に努めています。ここでは、松江市立病院の地域医療への取り組みを紹介します。

## がん 市民公開 講座

### 深めよう！ 婦人科がんへの理解 広めよう！ がん検診の重要性

9月のがん征圧月間にあわせ、9月27日（火）に当院の産婦人科田代稚恵医師を講師として、「婦人科がんについて」をテーマとしたがん市民公開講座を開催しました。

他のがんに比べ若い世代の罹患率が高い子宮頸がん、また近年罹患率が上昇している子宮体がん、高齢者にも多く見られる卵巣がんについて、なりやすい要因からよくみられる症状、治療、検診、そして遺伝性がんに至るまで、婦人科がんの理解を深めることのできる内容でした。

参加者からは、「今まで知らなかったことばかりで大変勉強になりました」、「検診の重要性を理解することができた。家族にも勧めたいと思う」、「遺伝性がんについても詳しい話があって良かった」などのご意見をいただきました。

今後も、がんへの理解を深め、検診の重要性を広められるようにがん市民公開講座を企画していきます。



### “がん相談支援センター”はあなたと家族を支えます

## がん相談 支援センター

がん相談支援センターとは、全国各地のがん診療連携拠点病院などにあり、がんに関する情報を提供したり、相談を受けたりするところです。当院でも、患者さんやご家族、地域の方々に、専門の相談員が、がんにかかわるさまざまな質問や相談にお応えしています。

どなたでもご利用できる“がん相談支援センター”ですが、まだよく知られていないのが実状です。そこで今年、がん征圧月間・ピンクリボンキャンペーンにあわせて“がん相談支援センター”のPRを行いました。来院される方々に“がん相談支援センター”の案内を配布するとともに、実際に相談も受けつけました。はじめてがん相談支援センターを知ったという方もあり、「相談できる場所があるとわかり、心強いです」といった言葉をいただきました。

松江市立病院には“がん相談支援センター”があります。がんについて、「もっとよく知りたい」「療養生活について聞いてみたい」「心の悩みを誰かに聞いてほしい」「生活や経済的なことで心配がある」時には、どうぞ気軽にご利用ください。



## 島根県 がんピアサポーター 相談会

平成29年2月21日（火） 9：30～11：30 松江市立病院 講堂（2階）  
がん患者さんやそのご家族のご相談に応じます。秘密は厳守します、無料です。  
お申込み・問い合わせ先 松江市立病院がん相談支援センター（TEL：（0852）60-8083）

## TOPICS

### 医療安全推進週間

11月20日から26日まで、厚生労働省の主催による医療安全推進週間でした。

当院でもパネル展示をおこない、医療安全に関するリーフレットを患者さんに配布しました。

医療安全には、患者さんやそのご家族が主体的に関わっていただくことが大変重要です。ご理解とご協力をお願いいたします。



## TOPICS

### 立体駐車場エレベータ設置

病院南側にあります立体駐車場の東側（がんセンター側）に、地下と1階を結ぶエレベータを設置しました。

従来は、階段だけでご不便をおかけしていましたが、これからはエレベータをご利用ください。



## TOPICS

### 口腔がん集団検診

12月10日（土）午後、当院で口腔がん集団検診を実施し、465名の方が受診されました。

口腔がんはあまり知られていませんが、最近罹患数が増加しているがんです。検診方法は視診と触診が主となりますので、手軽に受診できる検診といえます。早期に発見すれば治ることも期待できます。皆さんも口腔がんの検診を考えてみてください。



## TOPICS

### いやしの森コンサート

12月9日（金）に、1階ホスピタルモールにて「午後のクラシック」と題した第21回いやしの森コンサートをおこないました。今回は、ドイツを中心に活躍され、松江クラシック音楽祭の音楽監督を務められる朝枝信彦様をお迎えし、開星高校の原様、山陰フィルハーモニー管弦楽団の安達様、和田守様、勝部様や当院の西音楽療法士と一緒に、音楽のひと時を過ごしました。クラシック音楽だけでなく、童謡をアレンジした楽曲もあり、皆さんにも親しみやすい内容で、こころむ時間となりました。



### 松江市立病院 理念

松江市立病院は、市民への奉仕を第一とし、市民から愛され、信頼される病院を目指します。地域中核病院として、また自治体病院として市民ニーズに的確に応える医療を行うとともに、保健医療福祉の連携に努めます。

### 松江市立病院 基本方針

- 1 私たちは、患者さんへの思いやりを第一とし、市民から愛され、信頼される病院にします。
- 2 私たちは、医療水準を高め、全力を尽くして患者さんの診療にあたります。
- 3 私たちは、患者さんの権利を尊重し、信頼に基づく安全で良質な医療を提供します。
- 4 私たちは、診療所や他の病院と連携を密にし、地域医療の充実に努めます。
- 5 私たちは、健全経営に努め、明るく働きがいのある病院を創ります。

### 精神科 基本方針

患者さんの尊厳と自己決定の権利を尊重し、その権利を擁護します。

- 1 精神科救急医療への貢献をします。
- 2 精神障害者の身体合併症患者の受入を行います。
- 3 地域資源との連携を行い、地域生活移行を支援します。

### 緩和ケア 理念

悪性疾患を含め、すべての疾患において苦痛の緩和を必要とする患者、およびその家族の想いを可能な限り尊重する。さらに患者およびその家族の生活や希望を支え、その人らしく生きていくことができるよう最大限の支援を行う。

### 緩和ケア 基本方針

- 1 痛みやその他のほかの苦痛となる症状を緩和します。
- 2 患者がその人らしく生きることができるよう支えます。
- 3 無理な延命や意図的に死を招くことはしません。
- 4 病気の早い段階から適用し、積極的な治療に伴って生ずる苦痛にも専門性をもって対処します。
- 5 患者の希望に添い、在宅への支援を行います。
- 6 患者さんの療養中から死別した後に至るまで、家族が様々な困難に対処できるように支えます。

### 患者の権利宣言

松江市立病院は、患者さんの権利を尊重し、信頼にもとづく良質な医療を行うため、患者さんの権利と責務に関する宣言をここに掲げます。

#### 1. 良質な医療を受ける権利

患者さんは、安全かつ適切で良質な医療を公平に受ける権利があります。

#### 2. 説明や情報を得る権利

患者さんは、病状や治療法等について十分な説明と情報を得る権利があります。

#### 3. 選択の自由と自己決定の権利

患者さんは、治療法を自らの意思で選択、決定する権利があります。

#### 4. 個人情報の秘密保持の権利

患者さんは、診療の過程で得られた自己の個人情報の秘密が守られ、患者さんの承諾なしには開示されない権利があります。

#### 5. 尊厳を得る権利

患者さんは、個人としての人格、価値観などを尊重され、医療従事者との相互の協力関係のもとで医療を受ける権利があります。

#### 6. 患者さんの責務

- (1) 医療従事者に対し、自分の健康に関する情報を提供する責務があります。
- (2) 他の患者さんの診療に支障を与えないよう配慮する責務があります。
- (3) 医療従事者の指示を守り、治療効果をあげる努力をする責務があります。

表紙写真 建設中の「がんセンター」 屋上にヘリポートが設置されました。3月稼働まであと少しです。

# 診療日程表

平成29年1月

診療科		月	火	水	木	金	
総合診療科		曾田	芦田	曾田	山田	曾田	
糖尿病・内分泌内科		多田	佐々木	佐々木(初診) 多田(再診)	多田	佐々木	
消化器内科		河野・加藤・堀江	谷村・三浦・吉村	堀江・加藤・村脇	吉村・村脇・三浦	竹田・谷村・河野	
循環器内科	初診	岡田	足立	竹田	太田	三浦	
	再診	—	太田・竹田	岡田	足立・三浦	—	
呼吸器内科		小西	龍河・早淵	小西	早淵(初診) 小西(再診)	龍河	
神経内科		医師交替	高井	鞆嶋	高井	鞆嶋	
小児科		辻・掛江	岡本・掛江	辻・田中	辻・岡本	岡本・掛江	
放射線科		堀・飴谷	謝花	堀・飴谷	謝花	飴谷	
精神神経科		小野・奥田	大竹	奥田・今岡	大竹・小野	大竹・大学医師	
皮膚科		松木 吉田(再診)	吉田 松木(予約のみ)	松木 吉田(再診)	松木	松木 吉田(再診)	
消化器外科	初診	山田	河野	梶谷	倉吉	大谷	
	再診	若月・倉吉	吉岡・大谷	若月・山田	河野	吉岡・梶谷	
乳腺・内分泌・血管・胸部外科		内田	松井	野津	松井	野津 内田(乳腺・内分泌)	
心臓血管外科		—	—	—	—	清水 14:00~16:00	
脳神経外科		医師交替 (初診)	阿武	医師交替 ~9:00(初診)	中川 瀧川(再診)	瀧川 阿武(再診)	
整形外科		医師交替(初診) 村上(再診)	近藤(初診) 梅木(再診)	山本(初診) 近藤(再診)	村上(初診) 山本(再診) 近藤(再診)	梅木(初診)	
形成外科		松井	松井	松井	松井 ~9:00(初診)	松井(再診) 坂井(紹介のみ)	
産婦人科	初診	入江	佐藤	高橋	高橋	紀川	
	再診	高橋	入江	澤田	佐藤	齊藤	
	妊婦健診	佐藤	高橋	齊藤	澤田	入江	
泌尿器科		角	瀬島	山口	角	山口・瀬島	
耳鼻いんこう科		榎本・小谷	榎本・小谷	榎本・小谷	榎本・小谷	榎本・小谷	
眼科		板持・堅野	板持・堅野	堅野(再診)	板持・堅野	堅野	
麻酔科 緩和ケア・ ペインクリニック科	緩和ケア	岩下	—	岩下	安部・中右	—	
	ペイン	—	安部(午前) 小糠	—	—	岩下・中右	
リハビリテーション科		徳田・福永	徳田	福永	徳田	徳田・福永	
歯科口腔外科	午前	初診	高村	石倉	石倉	成相	小田原
		再診	成相・石倉・ 小田原・阿久津	成相・大熊・ 小田原・阿久津	小田原・成相・ 高村・阿久津	石倉・高村・ 小田原・阿久津	石倉・成相・ 高村・阿久津
	午後	再診	小田原・大熊・ 石倉・阿久津	小田原・大熊・ 石倉・阿久津	成相・大熊・ 小田原・阿久津	成相・石倉・ 高村・阿久津	成相・小田原・ 高村・阿久津

※都合により診療医師は変更する場合があります。



松江市立病院

MATSUE CITY HOSPITAL

●発行者/松江市立病院長 紀川純三 ●編集/広報委員会

<http://www.matsue-cityhospital.jp/>

〒690-8509 松江市乃白町32番地1 TEL(0852) 60-8000(代) FAX(0852) 60-8005